

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 ガソリン価格の上昇が続くもと消費者マインド改善 (05年7月ミシガン大消費者センチメント)

発表日：05年7月15日(金)

～景気拡大に伴う雇用・所得の拡大期待の高まりが押し上げ～

(No. UI - 069)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数		雇用判断				半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド	
	期待指数	現状指数	充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅	期待	現状		
04/07	105.7	105.3	106.4	19.7	25.7	23.0	7.1	6.8	4.1	96.7	91.2	105.2
04/08	98.7	97.3	100.7	18.4	26.0	20.2	8.8	6.5	3.9	95.9	88.2	107.9
04/09	96.7	97.7	95.3	16.6	28.0	21.6	9.4	6.3	3.9	94.2	88.0	103.7
04/10	92.9	92.2	94.0	17.4	27.9	20.7	10.5	7.6	3.6	91.7	83.8	104.0
04/11	92.6	90.2	96.3	17.1	28.0	20.3	11.4	4.6	2.6	92.8	85.2	104.7
04/12	102.7	100.7	105.7	19.4	26.4	22.4	7.7	6.6	3.5	97.1	90.9	106.7
05/01	105.1	100.4	112.1	21.0	24.3	22.0	7.8	7.2	3.5	95.5	85.7	110.9
05/02	104.4	96.1	116.8	21.1	22.4	17.9	7.8	7.2	4.1	94.1	84.4	109.2
05/03	103.0	93.7	117.0	21.8	23.8	19.3	8.2	5.7	3.8	92.6	82.8	108.0
05/04	97.5	86.7	113.8	20.4	22.9	17.7	9.9	5.8	4.1	87.7	77.0	104.4
05/05	103.1	93.4	117.8	22.9	24.1	19.0	9.5	7.8	3.5	86.9	75.3	104.9
05/06	105.8	95.8	120.7	22.6	22.6	19.2	9.0	6.5	3.4	96.0	85.0	113.2
05/07										96.5	86.6	112.0

(出所) The Conference Board, University of Michigan

(注) 雇用判断、半年後の景況感、購入計画の単位は%で、全体に占める割合を指す。

市場予想に反し前月 比0.5ポイント上昇

05年7月のミシガン大学消費者センチメント指数(速報値)は、965と市場予想の950への低下に反し前月から05ポイント上昇した。ガソリン価格が上昇しているものの、雇用・所得の拡大期待等によって2ヵ月連続の改善となった。ただし、マインドの水準、変化率ともに、堅調に推移している個人消費に大きな変化を与えるものではなかった。

現状指数が12ポイント低下したものの、期待指数が16ポイントの上昇となった。現状・期待が変化した要因をみると、現状判断は雇用・所得の拡大が持続しているものの6月に大幅に改善したことやガソリン価格が上昇していることを背景に悪化したと考えられる。一方、期待指数は原油価格の上昇にもかかわらず、株価や景気が堅調に推移していることによつて景気の先行きに対する楽観的な見方が強まり上昇したと考えられる。

7月上旬から中旬に かけての各種消費者 マインド調査はミシ ガンを除けば悪化

7月の他の消費者マインド調査をみると、TIPP景気楽観指数(7月5日~7月8日調査)が50.5から48.6に低下、ABC/ワットポスト消費者信頼感指数は6月の平均の102から7月第2週に11.0と小幅悪化した。このように、ミシガン大学以外の消費者マインド調査は軒並み悪化しており、一本調子のマインドの改善という状況ではない。一方、マインド調査期間と同時期(7月上旬)の消費動向を示す統計をみると、週間小売売上高は気温の上昇に伴う夏物衣料等の拡大によって、前週比、前月平均値対比で拡大しており、個人消費は堅調さを維持している。

原油が最高値を更新す るなかでも個人消費が 大幅に減速するリスク は小さい

消費者マインドを取巻く環境をみると、足下で原油価格が1バレル=60ドル前後で推移し、ガソリン価格も上昇している。今後も世界的な景気拡大ペースの加速に伴う供給不足懸念を背景にエネルギー価格の上昇が持続する可能性が高い。エネルギー価格の上昇が続けば、

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

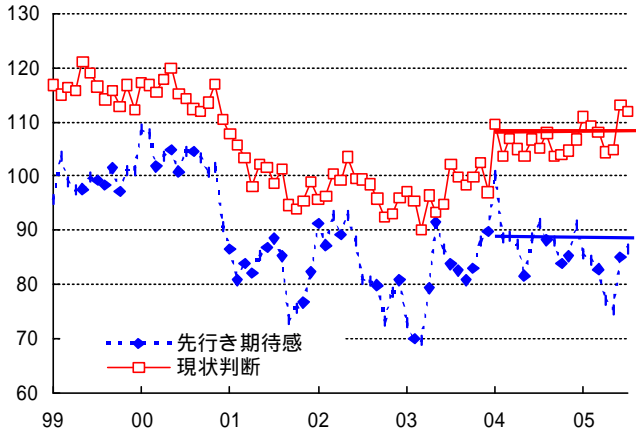
実際に景気に与える影響が小さくとも景気の先行きに対する不安感が強まり今後もマインドを悪化させる可能性がある。

しかし、マインドに与える影響の大きい雇用情勢を考えると、雇用に先行する景気は2003年4～6月期から2005年4～6月期にかけて潜在成長率を上回るペースで拡大しているとみられる。このような環境のもと、マンパワー社による新規雇用計画調査のなかの7～9月期の雇用計画を示す指数(季節調整済み)が前期と変わらず高い水準を維持するなど、企業の採用意欲は強い状態にあり、雇用の拡大が続くと予想される。加えて、雇用環境の改善による賃金上昇や持続的な福利厚生費の増加が見込まれることから、今後も可処分所得は増加傾向を辿る可能性が高い。以上のことから、消費者マインドが急激に悪化し個人消費の失速に繋がるリスクは小さい。

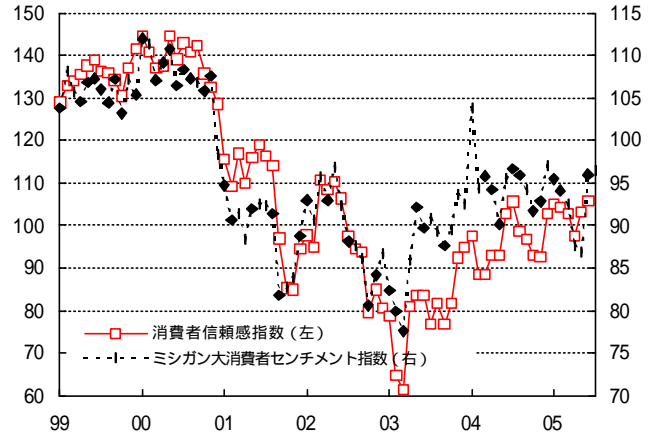
また、住宅販売に関しては、住宅販売に約1ヵ月先行する住宅購入口ーン申請件数は、モーゲージ金利が低下していること、政策金利の引き上げ後も銀行が貸出基準を引き締めていないため資金調達が容易な状況にあることから、4、5、6月と3ヵ月連続で過去最高を更新している。このため7～9月期にかけて住宅販売は過去最高水準を更新すると予想される。

以上のような家計部門の堅調持続を背景に、企業部門の拡大ペースも加速するとみられ、景況感は今後半改善傾向を辿ると見込まれる。

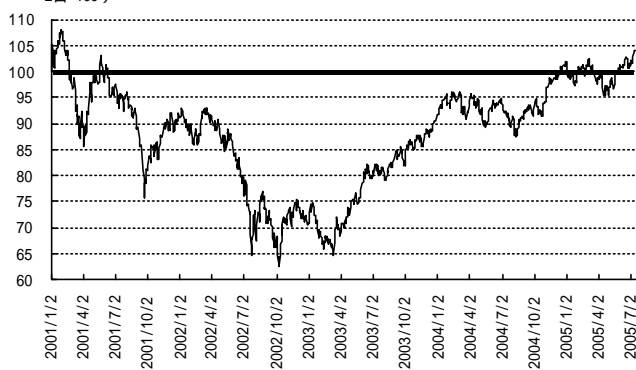
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



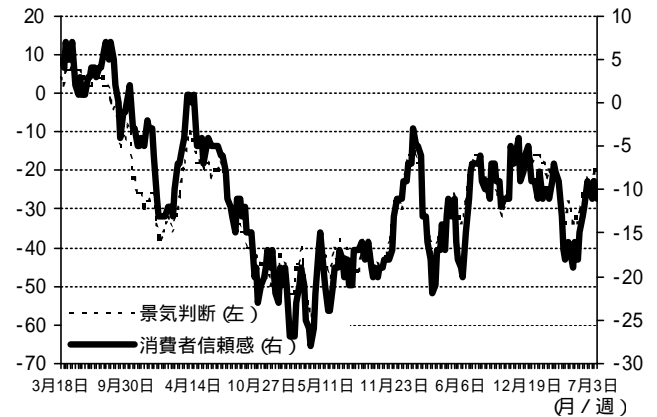
消費者マインドの動向



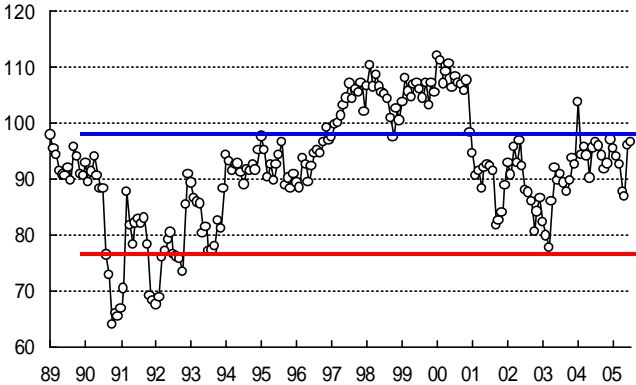
01年1月2日=100) ウィルシャ-5000の推移(2001年1月2日~2005年7月14日)



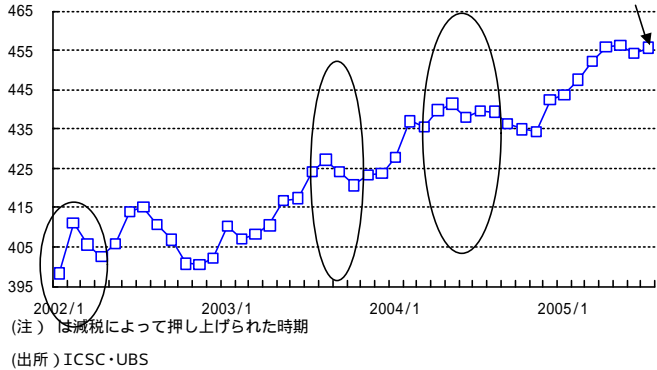
ABC/ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



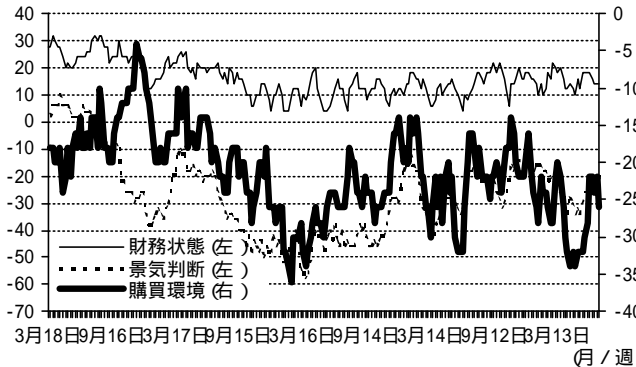
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



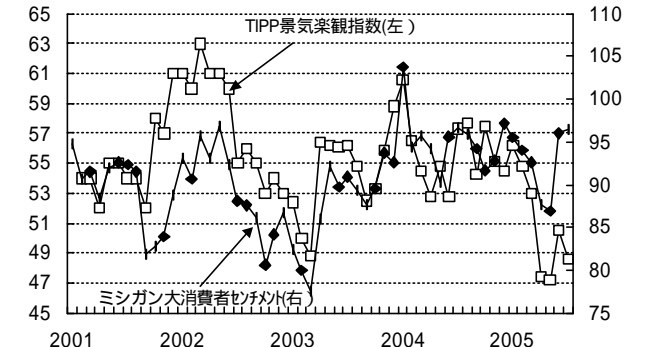
ICSC UBS小売売上高



ABC/ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



消費者マインドの推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。